

# 研究ノート「拙著『撰関院政期思想史研究』翼増三章

——再び平雅行「破綻論」などに答う——

(『論叢アジアの文化と思想』23、アジアの文化と思想の会、2014年12月)

森 新之介

緒言	398
第一章 補遺	
第一節 拙著補訂	399
第二章 「民衆仏教史観の研究史」	
第三章 「九条兼実の反淳素思想」	
第四章 「法然房源空の思想」	
第六章 「興福寺の訴訟と専修念仏者への朝譴」	
第二節 末代末法同異弁	411
問題の所在	
第一項 同義融合の有無	
第二項 主観客観の相違と対象範囲の広狭	
小結	
第三節 嘉禄三年の配流追却事件	420
問題の所在	
第一項 事件の経過	
第二項 嘉禄三年秋の専修念仏政策	
小結	
第二章 研究課題と研究法	
問題の所在	432
第一節 決疑三箇条	433
第一条 「民衆仏教史観」	
第二条 「貴族の評価」	
第三条 「貴族仏教」	
第二節 貴族思想と源空思想の研究課題	450
第一項 貴族の思想研究と二つの通念	
第二項 貴族と民衆と専修念仏	
第三項 源空の教判論と遺文法語	
第三節 研究法と顕密体制論	460
第一項 遡及法と反射法	
第二項 「正統」と「顕密仏教」	
結語	
第三章 研究史における顕密体制論	
問題の所在	474
第一節 分析の視角	476
第二節 昭和五十年代前半まで	479
第一項 旧仏教研究の開拓	
第二項 総体把握と顕密体制論	
第三項 動揺しなかった総体把握	
第三節 昭和五十年代後半から	494
第一項 若手研究者の評価	
第二項 想像された顕密体制論	
第三項 顕密体制論は定着したか	
第四節 思想史研究の現在と未来	511
第一項 隣接諸学と顕密体制論	
第二項 旧仏教研究と問題意識	
結語	519